

～ 紫薫枕 製作の流れ ～



1 中袋と外袋をそれぞれミシンで縫います。



2 そば殻とムラサキの根で染めた布を詰めて手縫いで閉じます。



3 枕カバーにマスコットキャラクター「平丸」の型染めを施します。



4 紫薫枕にメッセージカードを入れ、ラッピングを完成。



平館高校(太田優子校長、生徒248人)は、市敬老会などで89歳のお年寄りに贈る「紫薫枕」を189個製作しました。

今年で54回目となる紫薫枕の製作は、一つ一つが生徒の手作り。枕の中には、植物のムラサキの根で染めた布と北館製麺から提供を受けたそば殻を詰め、手縫いで閉じます。同校家庭クラブ員の普通科の

1年生と家政科学科の1年生から3年生が、6月下旬から作り始め、約2カ月かけて完成させました。

紫薫枕引渡式は8月30日に平館高校で行われ、同クラブの齋藤美嬉会長(3年)は「そば殻は熱を拡散して頭を涼しくし、紫根染の布には抗炎症、抗菌作用があるとされています。紫薫枕は安眠枕です。いつまでも元気に長生きしてほ

長寿を願い紫薫枕を製作



紫薫枕を手渡す生徒たち。右から齋藤美嬉会長、高橋康幸課長補佐、津志田徳悦事務局長、和久石大成副会長

しいです」と話し、市健康福祉課の高橋康幸課長補佐と市社会福祉協議会の津志田徳悦事務局長へ枕を託しました。

11地区で敬老会を開催 平館高手作りの枕贈呈

市敬老会は9月3日から8日まで、市内11地区で開催されました。

敬老会には、市内在住75歳以上の皆さんを招待。対象者5902人中1847人が出席しました。式典では、77歳の人には記念品として手ぬぐいと市商品券を、89歳の人には平館高校家庭クラブ手作りの紫薫枕を贈呈しました。

祝宴では、地域の子どもたちが練習した歌や踊りが披露され、参加者は楽しいひとときを過ごしました。



紫薫枕を贈呈した吉田優愛さん(右)と渡辺美鈴さん(左) (松尾地区敬老会)



塚 フミエさん
=南寄木=

紫薫枕を初めて見ますが、使いやすい印象です。高校生から頂いてうれしかったです。早速、今夜から大事に使わせていただきます。



齋藤 孝さん
=新町中央=

紫薫枕を頂くのが楽しみでした。一生懸命作ってくれた生徒さんたちに感謝しています。ありがたく使わせてもらいます。